

# 大牟田市立玉川小学校

## 1 本校のESDの特徴

本校区は、大牟田市の南東部に位置し、周りを緑に囲まれたとても自然豊かなところである。昔から農業（稲作が中心）が盛んな地域であり、江戸時代には天領として米を納めていた由緒ある地域でもある。現在も農家が多く、いろいろな農作物が栽培されている。

本校におけるESDの取組は、学校教育目標の「自ら学び、豊かな心で明るく健康的な子どもの育成」を受け、本校区の特徴である自然豊かな環境を利用して、その目標を「将来にわたって、持続可能な社会を構築するために、一人一人の児童が『食』が人や環境と深いつながりがあることを知り、『食』を大切にする心情を育てる」と設定した。

食の大切さとふるさとのよさに気付き、ふるさと玉川に誇りをもつ児童を育成するために、玉川ならではの特産物を学びの対象とするとともに、地域の方々とのつながりを各学年ごとに意図的に仕組み、地域の特産物の栽培や収穫、調理体験、地域へのお礼（手紙やもち配り）などを共に行っている。

また、地域の方への感謝と畏敬の念をもつために、共に汗を流す本格的な体験活動を行い、農業名人ならではの長年の知恵と技術を肌で感じたり、伝統芸能を伝承していこうとする熱い思いに触れたりしている。

さらに、ふるさとのよさに誇りがもてるよう、ユネスコスクールの北海道留寿都小学校と農業交流を行い、お互いの共通点や相違点について学ぶことを通して、玉川ならではの良さを再確認する学習を行っている。

## 2 ユネスコスクールとしての活動・全体計画

- (1) 1年生 「ひとつぶのたねから」  
(さつまいもの栽培、留寿都小学校との交流：手紙)
- (2) 2年生 「ぐんぐんのびろ」  
(野菜やさつまいもの栽培、留寿都小学校との交流：さつまいも)
- (3) 3年生 「玉川探検隊」  
(留寿都小学校との交流：みかん)
- (4) 4年生 「地域の特産物を使って、いろいろなものを作ろう」  
(留寿都小学校との交流：うめジュース作り)
- (5) 5年生 「米作りに挑戦しよう」  
(留寿都小学校との交流：米作り関連、お弁当の日)
- (6) 6年生 「玉川の自然にふれよう」  
(留寿都小学校との交流：野草学習、郷土学習)

## 3 特徴的な活動事例

<3年生の取組 総合的な学習の時間 単元名「玉川探検隊」>

### (1) 目標

- ①地域の特産物を調べ、特にみかんについては、収穫・調理体験を通して、みかんを育てる苦労を学ぶとともに、玉川小学校校区の自然の豊かさを感じ、ふるさとに愛着をもつことができるようにする。
- ②北海道留寿都小学校との交流を通して、地域の特性や違いに気付いたり、ふるさとのよさを感じたりすることができる。

## (2) 具体的実践

### 【地域の特産物調べ】

○地域を歩いたり、焼け石山の里に行ってインタビューをしたりし、玉川の特産物について調べた。自分たちが思っていた以上に、たくさんの農作物が穫れることが分かり、改めて玉川の自然の豊かさを感じていた。



### 【みかんの収穫】

○地域の方のみかん山でみかんの収穫を行ったり、農業に対しての思いや願いに触れたりする中で、農家の方の苦労や工夫を実感することができた。そのみかんでジャムを作り、収穫の喜びを感じることができた。



### 【留寿都小との交流】



○留寿都小からジャガイモを、玉川小からはみかんを送りあった。調べ学習のまとめも一緒に郵送し、違う地域での特産物についてお互いが知ることができた。調理も行い、北海道のジャガイモを堪能した。

## (3) 児童の感想から

- ・今まで、みかんを簡単に食べていたけど、収穫するまでにたくさんの苦労があることが分かりました。農家の方のことを考えながら食べたいと思います。
- ・留寿都で穫れたジャガイモはホクホクしていて、とても美味しかったです。給食の味噌汁にも入れてもらい、全校児童で味わうことができ良かったです。ジャガイモやみかんの秘密について情報交換ができて嬉しかったです。
- ・地域が違ると、穫れる特産物が違うことが分かりました。また、玉川はたくさんの特産物が栽培され、自然が豊かだと思いました。

## 4 本年度の成果と課題

### ○成果

- ・地域の方の多大な協力で、他の地域ではできない本格的な体験を伴った学習ができ、子ども達の興味や関心が持続することができた。
- ・北海道留寿都小とは、特産物や学習のまとめなどの交流が多くでき、そこから共通点や相違点について深く考えることができた。

### ○課題

- ・体験学習の前後の学習で、もっと主体的に関わって課題を見つけ、自分たちで解決策を考え、行動につなげさせる手立てが必要。